特集2
多職種連携のキーパーソンに聞く！

骨粗鬆症マネージャー11名で「顔の見える連携」に取り組む聖隷佐倉市民病院

骨粗鬆症マネージャー資格を取得したさまざまな専門職が骨粗鬆症リエゾンサービスを構築・運営するうえで、何を目的として、どこから実行すべきか、制度が発足したばかりで、参考となる実例もまだ少ない状況です。そんな中で、11名の骨粗鬆症マネージャーを柱として、地域連携を実現した聖隷佐倉市民病院（千葉県佐倉市）の取り組みをご紹介します。

院内スタッフに加えて近隣の医療機関や市の職員とも連携

聖隷佐倉市民病院では、2014年12月に「骨粗鬆症リエゾンサービス委員会」を立ち上げ、11名の骨粗鬆症マネージャーが中心になって、骨粗鬆症リエゾンサービスの運営に取り組んでいます。骨粗鬆症マネージャーの内訳は、看護師3名、理学療法士3名、管理栄養士3名、薬剤師2名で、そのほかに整形外科医や事務関係者に加え、近隣の医療機関や佐倉市健康増進課の職員なども外部から参加して、骨粗鬆症リエゾンサービス委員会として合計20名以上の委員が活動しています。委員会は毎月1回1時間半程度のミーティングを開催し、院内と佐倉市内での医療連携を主な議題にして、さまざまな検討を行っています。

骨粗鬆症リエゾンサービス委員会のミーティング

佐倉市内の10施設と病診連携を実施

聖隷佐倉市民病院では、2013年3月から、椎体骨折で手術を受けた患者を対象に、退院後の治療継続を目的とした地域連携パスを作成して、市内で医療連携を実施しています。骨粗鬆症リエゾンサービス委員会に所属する理学療法士・加藤木丈英さんは「顔の見える連携にこだわって、地域連携室の職員と協力しながら周辺施設を1件ずつ直接訪問して、連携をお願いしてきました」と活動を紹介します。現在は内科を中心に10施設の協力を得て、病診連携を実施していて、2年間で70%以上の患者が手術後も治療を継続し、再骨折率も20%程度に抑えられているそうです。

「連携先の医療機関に対してアンケートを実施したところ、相談窓口がわかりにくい、タイムリーに相談できないといった意見があり、今後の検討課題と考えています」と、看護師の宮崎木の実さんは語ります。

さまざまな専門職が認識を共有

骨折の一次予防を目的に多職種が協力して総合的な指導を実施

さらに、新しい試みとして、2015年11月からは看護外来が中心になって骨折の一次予防にも取り組んでいます。検診センターで行う骨密度検査で、骨折リスクが高いと判定された患者に、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師など多職種が連携して総合的な骨折予防の指導を行うものです。かかりつけ医がいない人には適切な医療機関を紹介し、3カ月後に看護師が電話で通院状況や処方された薬剤を確認して、聖隷佐倉市民病院の次の受診日を確認します。

また、一般市民を対象に「市民公開講座」を定期的に開催して、骨粗鬆症やロコモティブシンドロームの啓発活動を行ったり、医療従事者から依頼を受けて出張講演会を開催したり、他の施設からの視察も受け入れています。

出張講演会で多職種連携の経験を共有

出張講演会では、骨粗鬆症マネージャーが、骨粗鬆症の早期発見、治療を目的とした多職種連携をテーマにレクチャーをします。参加した整形外科医から「院内のスタッフに資格の取得を勧めてもなかなか受験してもらえない」という相談を受けたり、メディカルスタッフから「資格を取得しても何をやればいいのかわからない」「他の部署に異動したら資格を生かせない」といった声が寄せられることもあります。

こうした声に対して、加藤木さんは次のように対応しています。「多職種連携の具体的なノウハウをお話しするとともに、連携が成功したときの達成感など良い経験を伝えるように心がけています。以前は当院でも多職種連携は暗中模索で、実際に地域連携で成功している大阪府済生会吹田病院や新潟リハビリテーション病院を見学しました。今では逆に見学を受ける立場になって、自分たちの活動がさまざまな場所で役立っているのかなと思います。やりがいを感じますね」

常に新しい課題に取り組み“市民のための病院”を目指す

聖隷佐倉市民病院では、骨折の一次予防や椎体骨折手術後の治療継続など、目的を明確にしたうえで連携システムを構築して、チーム医療に携わるスタッフに骨粗鬆症マネージャーの資格を取得するように勧めています。今後は放射線技師がマネージャー資格認定試験を受験する予定で、院内の多職種連携がさらに広がりを増すと期待しています。

「常に新しいことにチャレンジするのが私たちの基本的な思いです。今年2月からは骨折の二次予防を目的とした外来の開設も予定しています。“市民病院”の名前の通り、より地域に根付いた佐倉市民のための病院を目指して、医療連携をさらに進めていきたいと考えています」（宮崎さん）

聖隷佐倉市民病院

腎疾患の治療を目的とする「国立佐倉病院」として1874年に開設され、2004年3月から聖隷福祉事業団に経営移譲し、現在は聖隷佐倉市民病院として運営されています。地域の中核となる病院として、佐倉市を中心に「顔の見えるチーム医療」を展開中です。

診療科目：内科、外科、整形外科、眼科、放射線治療科など26診療科
病床数：304床